

昭和20年代における愛知県古墳時代遺跡

分布調査（三河編 I）

伊 奈 森 太 郎 筆

松 村 冬 樹 編輯・補遺

この稿は故伊奈森太郎氏により残された、昭和20年代の遺跡集成表を紹介するもので、本紀要5号（1976）に掲載した尾張編の後をうけるものである。三河は伊奈氏の地元ということもあり、氏の調査がおよんだ古墳の数は尾張部の数倍にのぼる。が、その資料を検討する時、破壊されたり、何らの記述もないままに滅失した古墳のあまりの多いことに驚かされる。昭和20年代後半から今日までの四半世紀の間ほど、遺跡や文化財が軽視されてきた時期はないといっても過言でない。このような現状において、この資料のもつ重要性や、それを公表することの意義は大きいと言えよう。

この集成表の紹介にあつては前回同様の記述方法をとる。すなわち、旧漢字や明らかな誤りを直し、数字を算用数字にあらためる以外は原文通り記述する。本文の記述は次の様にする。

遺跡名称

所在地

①形状〈円、前方後円、方、及び全壊、半壊の別〉 ②大きさ〈墳丘の径、高、その他、全長、面積等、単位はメートルである。但し、尺をmに換算したと思われるものもあり、小数点以下の数字は信用できない。〉 ③遺物 ④調査者 ⑤所蔵者 ⑥文献 ⑦現状其他
地域区分は現在の行政区分を優先し、その内で氏の分類（旧行政区分）ごとに記述する。そのため多少現在の行政区域と異なる遺跡がはいる場合もある。（例えば、旧西加茂郡はほとんどが豊田市として記述される。しかし、藤岡村、小原村は現在も西加茂郡であり、別に記すものはあるが、遺跡数が少ないこともあり、旧西加茂郡の一部として豊田市に含めてある。）

遺跡名称、所在地名は原文の記述を優先し、現在の名称、所在地、遺跡番号等は愛知県教育委員会『愛知県遺跡分布図』（1972）をもとに（ ）で補足した。更にスペースの関係上、連続した名称をもつ古墳群は、原文の古墳番号をローマ数字で省略して列記する。（○○3号墳＝Ⅲ）

末尾には補足、参考文献を可能な限り付け加えた。参考文献は、前回の略号は用いず、文献名称を記述する。但し、2度目以後の引用の際は、著者・編者、発行年は省略し、文献名のみ記することとする。また、愛知県庁『愛知県史蹟名勝天然記念物調査報告』に関しては、『県報』と略し、巻数は前回同様、漢数字で示すこととする。

なお次に掲げる部分は三河編全体の10分の1にも満たないものである。未掲載のものについては「小林知生教授退任記念論文集」（仮称）に収録する予定である。なお、豊田市郷土館の田

端勉氏, 安城桜井中学校の天野暢保氏にはいろいろ御教示いただいた。

豊田市 (旧西加茂郡挙母町, 同高橋村, 同猿投町, 円石野村, 同保見村, 同小原村, 同藤岡村, 旧碧海郡上郷村)

高根古墳

挙母町大字長興寺字高根

①円 ⑦石槨あり。玄室長5米, 巾2米。

(補) 5018~20; 高根1号~3号墳, 秋葉町8のことと思われる。(参) 愛知県西加茂郡教育会『西加茂郡誌』(1926) 515表。豊田市教育委員会『豊田市埋蔵文化財調査集報 I』古墳 I (1974) 83~133。以下『豊田調査集報』と略す。豊田市教育委員会。豊田市史編さん専門委員会『豊田市史 I』(1976) 278表。

森八柱神社古墳 (1442; 八柱社古墳)

高橋村大字森字森 神社地 (森町3-80・81)

①円 ②径40, 高8 ⑦円墳上に八柱神社の社殿がある。西方より眺めば実に悠大なる古墳でありしを思わしめる。北方に2重掘でなかったかと思わる遺構が存する。境内全部風致保安林となっている。

(参) 『西加茂郡誌』517。豊田市史編集委員会『豊田市史』(1960) 67。豊田市教育委員会『豊田大塚』(1966) 70。『豊田調査集報』157~165。『豊田市史 I』268~。

市塚古墳 (1441)

高橋村大字御立字市塚 極楽寺北方 (御立町3-24)

①円 ②径30, 高6 ⑦昔よりこの塚に触れると病に罹るとて草木の茂るにまかせてある。附近に数個の円墳があったが, 大方壊滅し, 現在北方の畑の中に形跡を残しているのが1基ある。

(補) ⑦の記述にある古墳は, 5060; 市塚北古墳であろう。(参) 『西加茂郡誌』517。『豊田市史』67~68。『豊田大塚』70。『豊田市史 I』270。

池ノ根古墳 (5023; 池ノ根1号墳)

高橋村大字寺部字池ノ根 高橋中学校地内 (高橋町4-70)

①全壊 ②不明 ③鉄製剣, 須恵器 ⑤高橋中学校 ⑦中学校新築の際, 土工作業中に破壊。尚校門前にも古墳の遺跡らしきものがある。

(参) 『豊田大塚』69。『豊田市史 I』267表。

三ッ塚古墳 (土師塚古墳)

(野見町)

①全壊 ③須恵器(長瓶) ⑤能見神社

(補) 県台帳には記されていないが, 地元では土師塚として知られているものであろう。

(豊田市郷土資料館の田端勉氏、松井孝宗氏の御教示による。)

古鼠古墳 (滅失)

高橋村大字古鼠字古鼠 山林 (平井町古鼠)

①全壊 ②不明 ③須恵器, 土師器, 漢式鏡, 管王, 刀子 ⑦全部破壊其の跡を存するのみ。

(参)『西加茂郡誌』516。

百々古墳 (5001)

高橋村大字百々字百々 宅地 (百々町)

①全壊 ②不明 ③鉄鎧, 祝部 ⑦この夏に村役場建築の際石槨破壊。今原形無し。
吉田一慶氏宅地となっている。

(参)『西加茂郡誌』516。『豊田大塚』65。『豊田市史 I』267表。

岩滝古墳群 (5002~04; 荻洞西/南/東墳)

高橋村大字岩滝字岩滝 北方山嶺 (岩滝町荻洞)

①円, 半壊 ⑦数個の石槨がある。

(参)『西加茂郡誌』517 (この記述の原典か。)'『豊田大塚』65~66 (やはり荻洞支群のことと考えている。)'『豊田市史 I』271。

市木古墳群 (1437, 5044, 5050~51; 京ヶ峰1号~4号墳?)

高橋村大字市木字市木 南方山中 (京ヶ峰2?)

①円, 半壊 ③須恵器 ⑦多数の古墳があったが弘法大師を祀る為, これを破壊して石材を取った。

(参)『西加茂郡誌』517。『豊田市史』76。『豊田大塚』68。

上野山神明社古墳 (1444; 神明社古墳)

高橋村大字上野山 神明社社地 (上野町7-54 神明社境内)

①円 ②径25, 高5 ⑦墳上に神明神社の社殿がある。北方に濠の遺構がある。墳上に3本の老松がある。

(参)『西加茂郡誌』517。『豊田市史』67。『豊田大塚』69~70。『豊田調査集報』153~6。『豊田市史 I』265~8。

上原1号~3号墳

猿投町大字四郷字上原西山 I・II/字下原下畑 III

I ①円 ②長24, 高1.2 ③附近出土, 土器, 石鏃 ⑦未発掘, 通称ふるはかとよぶ。原形残在す。塚なし。

II ①円 ②長12, 高2 ⑦未発掘。原形残存す。塚なし。

III ①円 ②長24, 高4 ⑦未発掘。塚あり。一部破壊。

(補)豊田市遺跡台帳の口104の遺跡の西北にあたり, 須恵器が散布しているが, 古墳かどうか不明という。(田端氏の御教示による。)

花本古墳 (1403；宇津木古墳)

猿投町大字花本字青木 畑 (花本町宇津木29)

①円, 半壊 ②長32, 高2.8 ③鏡, 剣, 土器等。

(参)『西加茂郡誌』516。猿投町誌編集委員会『猿投町誌』(1968)62～63。『豊田調査集報』134～41。『豊田市史 I』258～9。

越戸古墳 (5000；小笹古墳)

猿投町大字越戸字上能田 畑 (越戸町小笹)

①円 ②長20, 高2.8 ⑦壕無し。原形残存。

(参)『西加茂郡誌』516。

荒井古墳 (古墳に非ず)

猿投町大字荒井字寿 田

①前方後円 ②周150, 高4.0 ③土器 ⑦未発掘。壕無し。原形残存。通称ふるづか。

(補)古墳と考え発掘をすすめたが、縄文遺跡(4960；船塚遺跡)と判明とのことである。

(田端氏の御教示による。)

井上1号・2号墳 (1408～09；井上1号・2号墳)

猿投町大字四郷字井上 山林

I ①円 ②長36, 高3 ⑦未発掘。壕無し。

II ①円 ②長18, 高1.5 ⑦同上

(参)『猿投町誌』62～4。『豊田調査集報』142～5。『豊田市史 I』259～61。

御船古墳群 1号墳 (1405；^{くちあけ}口明塚古墳)

猿投町大字御船字口明塚 山林 (御船町口明塚)

①円, 横穴開口 ②長8.0 高2.0 ⑦既発掘。横穴式石槨露出。出土器不明。字名はこの古墳よりつく。

(参)『西加茂郡誌』516。『猿投町誌』62。『豊田市史 I』263。

御船2号墳 (1046；滝1号墳)

猿投町大字御船字滝 山林 (御船町滝)

①円 ②長8.0 高2.0 ⑦既発掘, 横穴式石槨出。出土器不明。

(参)『猿投町誌』62。『豊田市史 I』261。

同, 其他20余個あれども大方破壊されている。

おおしろ
大城古墳

猿投町大字猿投字大城

①円, 半壊 ②長30, 高6.0 ⑦古墳と推定されるも確実性なし。

(補)台帳に登録はないが, 猿投神社の境内, 滝の上に存在する。(田端氏御教示。)

池田1号・2号墳 (1418, 4984～85；池田1号～3号墳)

猿投町大字猿投字池田81 山林

I ①円，横穴開口 ②長20，高4.0 ③出土器不明 ⑦壕無し。横穴式石槨，口を開きおり。
玄室2室。原形残存。

II ①円，半壊。⑦1号墳の東南に近く，かすかに遺跡を残す。

(参)『西加茂郡誌』515。『猿投町誌』64。『豊田調査集報』256～7。愛知県教育委員会『重要遺跡指定促進調査報告』9，27～28。

地家^{じけい}1号・2号墳 (1420～22；地家1号～3号)

猿投町大字猿投字地家125番地 果樹園

I ①全壊 ②長11，高1.5 ③耳輪3，土器5 ⑤勝原四郎 ⑦壕無し。石槨露出せず。昭和10年頃発掘。

II ①円，半壊 ②長13，高2.0 ③刀剣 ⑦既発掘。壕無し。石槨露出。

藤山1号～3号墳 (1412～14)

猿投町大字加納字藤山 山林 (加納町藤山7)

I ①円，横穴開口 ②径26，高3.5 ③出土器不明 ⑦壕無し。石槨一部露出。原形完全残存。玄室3.0，巾2.0。

II ①円，半壊 ②高2.0 ⑦形状不明なるも円墳と推定せられる。

III ①円，半壊 ⑦同上。

(参)『西加茂郡誌』516。『猿投町誌』64。『豊田調査集報』67～82。『豊田市史I』254～6。

沖ノ田古墳

猿投町大字乙部字沖田 山林 (乙部町)

①円 ②径10，高3.0 ⑦壕無し。石槨露出。破壊。

(参)『西加茂郡誌』516。

高塚古墳

猿投町大字舞木字高塚 山林

①円 ②径20，高3.0 ⑦古墳と推定するも不確実。

馬場瀬古墳群1号墳 (1426～28；馬場瀬1号～3号墳)

石野村大字下瀬字馬場瀬西平地 原野 (平戸橋町馬場瀬)

①円，横穴開口 ②径20，高3.6 ⑦羨道を有する横穴式石槨。羨道長3.0，玄室幅2.5，長4.0，奥壁の上方及羨道部より内部に通ず。

右の外，10数個の円墳あれども破壊されて其の残石を見るのみ。

根川古墳 (1402)

保見村大字伊保堂字根川 (東保見町根川)

①円 ③玉類，金環，刀剣，埴輪円筒 ⑦石槨あり。

(参)『西加茂郡誌』515。『猿投町誌』68。『豊田市史I』250～51。

山洞古墳

保見村大字伊保堂字山洞

①円 ⑦石槨あり。

(補)『豊田調査集報』47～66頁によれば1号～4号墳まであり。但し県遺跡台帳未登録。

(参)『西加茂郡誌』515。『豊田市史 I』251～2。

山嶺古墳

保見村大字大畑 西方山嶺

①円 ③齋部、金環 ⑦石槨あり。玄室長3, 巾2。

(参)『西加茂郡誌』515。『猿投町誌』67。

火の雨古墳 (滅失)

小原村上仁木字広見302番 (現西加茂郡小原村)

①全壊 ⑦破壊せられて今無し。

(参)『県報』十七23。

御内平古墳 (1397)

藤岡村大字深見字御内平 (現西加茂郡藤岡村)

①円 ⑦石槨あり。玄室長4.8, 巾1.3。

(参)『西加茂郡誌』516。

東平古墳

上郷村大字^{おしかも}鴛鴨字東平

①円 ②径9.1, 高1.5 ⑦3個存在。

(参)『豊田市史 I』278表。

車塚古墳 (307)

上郷村大字永覚寺字車塚47 (永覚町車塚47-1)

②径40, 高6.0

(参)碧海郡教育会『碧海郡誌』(1916)808。上郷町誌編纂委員会『上郷町誌』(1966)377〔車塚古墳〕。『豊田大塚』86。『豊田調査集報』166～8。『豊田市史 I』278表。

三味線古墳 (305; 三味線塚古墳)

上郷村大字鴛鴨神明屋敷31の3 (鴛鴨町神明31)

②径17, 高1.3 ③祝部土器

(参)『碧海郡誌』806〔三絃塚とある〕。『上郷町誌』377〔三弦塚とある〕。『豊田大塚』86。『豊田市史 I』278表。

東鴛鴨古墳

上郷村大字鴛鴨字高岡山63番地。

①円, 半壊 ②径8.0, 高1.0

(補)298～300; 高岡1号～3号墳, 鴛鴨町高岡が該当の可能性はある。しかし, 1号墳は古墳ではなく, 2・3号墳は滅失しているという。(田端氏御教示による。)

『上郷町誌』376～7頁の記述からは, この高岡古墳のいずれかであろうとも考えられ

る。『豊田市史』278表。

安城市 (旧碧海郡安城市, 同桜井町)

塚越古墳 (83)

安城市大字古井字塚越21番地 (古井町塚越)

①前方後円 ②径41, 高4.5 ④三井博 ⑤大字古井字塚越願力寺

(補) 現在, 後円部後方及び西方が多少崩れているが, 前方部は原形を保つ。総全長は50m程あるという(桜井中学校, 天野陽保氏の御教示による)。(参) 安城市史編さん委員会『安城市史』(1971) 92~98。

応塚古墳 (4668)

安城市大字西別所字應268番地 (東別所町東畑)

①円, 半壊 ④三井博 ⑦10数年前(昭和10年頃か), 道路改修の際ほとんど盛土をとり現在では一部分が残されている。

干塚古墳

安城市大字東別所字東畑 (西別所町)

①円 ②径3.6, 高2.5 ③三井博 ⑦側に棕の木が植えてある。塚の前には弘法大師を安置し, 俗に「干塚弘法大師」といって村人の信仰的となっている。村人の伝えるところによると, 塚の中には刀が葬ってあると。塚の草をかいたり, 棕の木の枝を折ると祟りがあるという。

(補) 応塚, 干塚の所在地が逆に書かれているらしい。東別所にあるのが応塚で, 西別所のものが干塚と称されている。また干塚, ②大きさの項は, 半壊した後の応塚の大きさではないかという。干塚は原形を保ち, 目測でも直径10m以上あるという。(以上天野氏の御教示による。)

二子古墳 (史8・138)

桜井村大字桜井字二タ子8番地

①前方後円 ②高10 ⑦昭和2年10月26日内務省指定。

(補) 天野氏によれば, 墳形は前方後方墳という。(参) 『県報』十四(1936) 36~38。柴田常忠・矢吹活禪『愛知の史蹟名勝』(1927)267。桜井村役場『桜井村史』(1943)31~32。『安城市史』(1971) 108, 111~15。

(無名墳) (141; 印内北分1号墳)

桜井村大字桜井印内北分45。

①円

(無名墳)

桜井村大字桜井字印内北分46 (桜井町印内北分)

①全壊 ②壊滅, 円墳。

(参)『桜井村史』32表。

月見塚古墳

桜井村大字桜井字印内南分42 (桜井町印内南分)

①円

(補) 現在該当するものなし。碧海郡教育会『碧海郡誌』(1916)795頁に「看月塚, 同村大字桜井にあり, 其の義詳かならず」とあるものではなかろうか。

山伏塚古墳 (137)

桜井村大字桜井字印内南分43 (桜井町印内南分)

①同

(参)『碧海郡誌』795。

比蘇山古墳 (135; 北蘇古墳)

桜井村大字桜井字桜林 元県社桜井神社 (桜井町桜林)

①前方後円

(補) 県遺跡台帳には、北蘇古墳とあるが比蘇が正しい。

碧海山古墳 (149)

桜井村大字桜井字平地15 (桜井町平地15)

①円。

(参)『桜井村史』32。『安城市史』108～9。

中海道地下拡 (150)

桜井村大字桜井字中開道90地先 (桜井町中開道)

①全壊 ⑦壊滅

(参)『愛知の史蹟名勝』275～6。

塔ノ元地下拡 (143)

桜井村大字桜井字塔元 稲荷社 (桜井町塔の元)

①全壊 ⑦壊滅

もも塚古墳 (147)

桜井村大字桜井字下谷 八幡社 (桜井町下谷)

①円

亀塚古墳

桜井村大字東町字亀塚60 (東町亀塚)

①円

(補) 現在この地は墓地であり, 古墳でないという。(天野氏の御教示による。)(参)『碧海郡誌』195。

東町獅々塚古墳 (151; 獅子塚古墳)

桜井村大字東町字獅々塚2 (東町獅子塚)

①円。

(参)『碧海郡誌』794

八ッ塚古墳 (157)

桜井村大字東町字八ッ塚12 (東町向田)

①円

(参)『碧海郡誌』794。『桜井村史』38~40。『安城市史』107~8。

姫小川獅々塚古墳 (153; 姫塚古塚)

桜井村大字姫小川字姫49 (姫小川町姫)

①方 ⑦方墳と思われる。

(参)『碧海郡誌』793~4。『安城市史』109~110。(補)天野氏によれば、墳形は田の区画により方形に見えるという。方墳とも円墳とも決め手がないという。

姫小川地下掘 (152)

桜井村大字姫小川字姫 (姫小川町姫)

(補)安城市の史蹟に指定されている。現在、堅穴風に開口しているため内部は埋りつつあるが現存する唯一のものという。(天野氏の御教示による。)

姫小川古墳 (史9・155)

桜井村大字姫小川字姫40 浅間神社境内 (姫小川町姫)

①前方後円 ②径65.5, 高9.1 ⑦昭和2年10月26日内務省指定。

(参)『県報』十四(1936)39~41。愛知県文化財保存振興会『愛知の史蹟と文化財』65。
『桜井村誌』32。『安城市史』168。

(無名墳)

桜井村大字姫小川46番地 (姫小川町姫)

①円

(無名墳)

桜井村大字姫小川145番 (姫小川町姫)

①円

(参)上記2墳のいずれかが、154; 涯古墳, 姫小川町姫であろう。

王塚古墳 (156)

桜井村大字姫小川125・130 (姫小川町姫)

①円 ⑦都築藤幸宅地内

楠木塚古墳

桜井村大字村高字河成702の2 (村高町河成)

①方

(上記桜井村の古墳に関しては、すべて『桜井村史』の32~33頁の表に記述がある。)

(未完)

(伊奈: 元人類学研究所嘱託)

(松村: 文化人類学研究科修士課程在学)

